

氏名	田中弘教
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4039 号
学位授与の日付	平成17年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Possible contribution of prior hepatitis B virus infection to the development of hepatocellular carcinoma (B型肝炎ウイルス既往感染の肝発癌に及ぼす影響)
論文審査委員	教授 山田 雅夫 教授 谷本 光音 助教授 宮崎 正博

学位論文内容の要旨

B型肝炎ウイルス (HBV) 既往感染の肝発癌に及ぼす影響はほとんど知られていない。近年肝移植のデータなどより HBc 抗体陽性が、血清サンプルでの PCR 法による HBV-DNA 陽性の結果より高感度である可能性が示唆されている。そのため 1008 人の肝癌患者を対象とし、HBs 抗原陰性肝癌患者の年齢層別 HBc 抗体陽性率、さらに HBc 抗体陽性群と陰性群との間での臨床的特徴の差を分析することにより、HBV 既往感染と肝発癌の関連について検討した。

HBs 抗原陰性肝癌 [HBs 抗原陰性かつ HCV 抗体陽性肝癌 (C 型肝炎) および HBs 抗原陰性かつ HCV 抗体陰性肝癌 (非 B 非 C 肝癌)] 患者の割合は年齢とともに増加していた。これらの患者の HBc 抗体陽性率はそれぞれに対応するコントロール群と比較しても高率であった。HBs 抗原陰性肝癌患者の HBc 抗体陽性群と陰性群の臨床的特徴については、非 B 非 C 肝癌患者では対象症例が少なかったため統計学的有意差には届かなかったものの、HBc 抗体陽性群は陰性群と比較して主腫瘍径が大きく、脈管侵襲陽性率が高率であった。これらの腫瘍の特徴は B 型肝炎のものに類似していた。以上により HBV 既往感染が肝発癌に寄与している可能性を示した。

論文審査結果の要旨

本研究は、B型肝炎ウイルスの既往感染の肝発癌に及ぼす影響を解析したものであるが、従来ほとんど解析されることがなかった HBs 抗原陰性の肝癌患者に焦点をあてて解析をすすめる、年齢別の HBc 抗体陽性率、HBc 抗体陽性群と陰性群との間での臨床的特徴の差を分析している。その結果、HBs 抗原陰性の肝癌患者は年齢とともに増加していること、これらの患者の HBc 抗体陽性率は対照よりも高いこと、HBc 抗体陰性群に比べて HBc 抗体陽性群では、主腫瘍径、脈管侵襲陽性例が高率であり、B 型肝炎のものに類似した臨床的特徴を持つことを示した。これらの結果は、B型肝炎ウイルスの既往感染が肝発癌に寄与している可能性を示したもので、肝発癌について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。